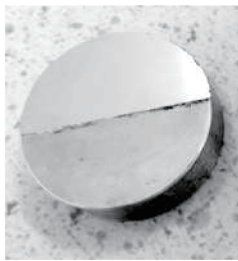


純ニッケルに電気メッキ

千代田第二工業 受託加工の受注開始

【立川】千代田第二工業（東京都狛江市、鈴木信夫社長）は、純ニッケルに電気メッキする方法を開発、受託加工の受注を始めた。特殊な前処理で、バインダーを問わず硬質炭化クロムを直接メッキできる。ニッケル部品



に耐摩耗性を付与できることを訴求し、樹脂成形用金型などへの処理を提案する。同受託加工で年間売上高5000万円を目指す。純ニッケルは導電性が熱伝導性に優れているが、表面活性が低いため電気メッキが難しい

▲純ニッケルへの電気メッキに成功した（円形材料の上半部分がクロムメッキ）

かった。一般的には、銅などをバインダーとしてメッキした後、クロムを重ねる手法が取られ、被膜の密着度が課題だった。すでに食品加工を手がける企業から処理を請け負っており、被膜の密着度・耐摩耗性が評価されたことから、受託加工を広く請け負

うことに決めた。クロムメッキの被膜は厚さ100ミクロン（マイクロは100万分の1）に対応、摩耗が進んだ際には既存の被膜を除去し再メッキもできる。千代田第二工業は独自技術を使った硬質炭化クロムメッキ処理「ダイクロン」が主力。今回の処理法開発については、東京都立産業技術研究センターから助言を受けた。